

(2) 資産に含まれる文化財

整理表

名 称	保護(指定・選定)の主体	保護の種別	面 積	要 約
薄根の大クワ	国	天然記念物	目通周囲 7.97m 樹高13.65m	推定樹齢1,500年、ヤマグワでは日本一の巨木である。江戸時代の17世紀にはその存在が知られていた。幹が太く姿が美しく、地元では「養蚕の神」として祀られている。実際に周囲の桑園が霜害にあった際などは、その葉を養蚕に用いた。
荒船風穴	未指定	-	2,500㎡	明治40年建設、蚕の原卵である蚕種を夏季に保存した冷蔵施設。貯蔵能力は110万枚で国内最大、旧上野鉄道を使って全国から送られた蚕種を一時保存した。上屋は撤去され石垣で築いた大規模な貯蔵穴が三基残る。
栃窪風穴	未指定	-	2,500㎡	荒船風穴と同様な施設で、明治43年に蚕種貯蔵を開始、戦後まで使用された。貯蔵枚数は15万枚で群馬県内第二位、吾妻郡内の蚕種貯蔵を一手に引き受けた。貯蔵穴二基と事務所の基礎石組が現存する。町が公有地化済み。
高山社発祥の地	未指定	-	-	全国標準の養蚕法といわれる「清温育」を創設した高山社の発祥地である。高山長五郎が清温育を発案した蚕室、母屋、付属施設と江戸期の長屋門などが石積みの台地上に現存する。
富沢家住宅	国	重要文化財		群馬県内最古の養蚕農家、江戸末期の建築で富沢家は名主をつとめた旧家。木造2階建て、茅葺き、入母屋造りで、桁行23.9m、梁間12.9mと大型。二階は蚕室で出梁造り、茅葺き屋根の正面は切り上げのかぶと造りである。
赤岩地区養蚕農家群	国	重要伝統的建造物群保存地区	約63ha	明治中期を中心とする出梁・出桁形式の養蚕農家群十数棟が良好な状態で現存。さらに、小屋・蔵・石垣等で構成される屋敷地、宗教施設の配置、周囲の農地・森林・山並みなど、江戸時代から現代までの養蚕環境を保持。
旧甘楽社小幡組倉庫	未指定	-		在来的な製糸法である座繰製糸を改良した組合製糸の遺構。小幡・上野などの養蚕製糸農家がつくった甘楽社小幡組の生糸などを保管した二階建てのレンガ倉庫で大正15年建設、養蚕農家の街並みの端に位置する。現在は町歴史民俗資料館として利用。
旧富岡製糸場	国	史跡・重要文化財	55,391.42㎡(史跡)	明治5年明治政府が設立した官営の器械製糸場。同26年の払下後も一貫して製糸施設として使用され、昭和62年に操業停止した。創業当初の建築がほとんど残存し、停止時の機械設備、事務所、女子寄宿舎、社宅群など付属施設も完全に残っている。
碓氷峠鉄道施設	国	重要文化財		明治26年横川、軽井沢に建設された旧碓氷線の遺構。66.7‰の急勾配を克服するためアプト式鉄道を採用。イギリスの技術指導を受けて建設され、基本的に全ての橋梁、隧道、付属施設がレンガで建設された。変電所と旧路線敷が残存。
旧上野鉄道関連施設	未指定	-	レンガ倉庫 1,374.84㎡	旧上野鉄道は明治30年に高崎、下仁田間の軽便鉄道として開業、地域の繭・生糸・蚕種輸送に活躍した。大正末の電化時に日本標準軌に改良されたが、旧路線敷に軽便鉄道用橋梁が、下仁田駅隣接地には繭・生糸用レンガ倉庫2棟が現存する。